

## インターフェースを考える <その4>

### 人と自然をつなぐ～インタープリター

#### 環境教育と行動変容

農業普及では、普及活動を通して農民の行動変容を促すことを目的としているが、環境教育においても、感じる→知る→考える→行動する、というサイクルで、「行動変容」につながることをめざしている。しかし、1 回限りのイベント的なプログラムに参加しただけで、それが何らかの行動変容につながることもなかなか期待できない。

そこでプログラムに参加することによって、何かを「感じる」ことで、上記のサイクルに入っていくきっかけ作りをしたり、またリピーターとして別のプログラムに参加することによって、行動変容をもたらす可能性をより高めることができる。

#### インタープリターの仕事

インタープリターとは、環境教育プログラムを実施する場合に、人と自然をつなぐ役割をする。インタープリテーションとは、自然・文化・歴史等を人々に分かりやすく伝えることであるが、その主な目的は教えることではなく、興味を刺激し、啓発することである。したがって、単に知識そのものを伝えるだけではなく、その裏側にある「メッセージ」を伝える行為や技能が重要である。

#### 印象付ける工夫

「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」と言われるように、単に情報を伝達するだけでは、相手に残るものは少ない。したがって、いかにしてメッセージを印象付けるか、が重要であり、そのためには①インタープリターの資質、②プログラムデザイン、③教材の工夫の3つが重要である。



ホールアース自然学校  
における研修風景

#### オマーンにおけるマングローブ環境教育

オマーンで実施したマングローブに関わる環境教育では、マングローブを初めて知ったという参加者も多かったため、プログラムを通していかに感じさせるか、また感じたことをどう残せるか、という観点からの「振り返り」を重視した。そのために、参加者におもしろかった活動にステッカーを貼ってもらうことで、プログラム全体を楽しみながらマングローブ林やマングローブ生態系について振り返るような工夫を行った。

また教材についても、マングローブ生態系の豊かさや重要性、保全の必要性等が伝えたいメッセージであるが、まずマングローブ林を知ってもらう、肌で感じてもらうことが第一歩と考え、マングローブクイズやロールプレイ形式のネイチャーゲーム、ビンゴカード等も使った親しみやすいものになるようにした。

インタープリテーションでは、「伝えよう」とするメッセージが相手に「伝わる」ようにするために、伝え手の思いと聞き手の関心を『つなぐ』ことが重要で、そのための道具立てや「スキル」も必要になってくる。オマーン C/P の本邦研修では、これまでの AAINews『環境教育の現場から』というシリーズでも紹介したような組織を訪問して、インタープリテーションに関する研修も行った。

普及活動で必要とされる普及員のコミュニケーション・スキルと同じように、インタープリターの「スキル」についても、研修で獲得できるものと、経験を積むことによって身に付けていく両方があり、日々の試行錯誤や研鑽が必要と考える。



マングローブ環境教育  
プログラムの振り返り